

「複数コ・ファシリテーター方式」による構成的エ ンカウンター・グループのファシリテーター養成の 試み

野島, 一彦
九州大学大学院人間環境学研究院

吉岡, 久美子
九州大学大学院人間環境学研究科

高橋, 紀子
九州大学大学院人間環境学府

三谷, 佳子
九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/862>

出版情報 : 九州大学心理学研究. 3, pp.21-28, 2002-03-31. 九州大学大学院人間環境学研究院
バージョン :
権利関係 :

「複数コ・ファシリテーター方式」による 構成的エンカウンター・グループの ファシリテーター養成の試み

野島 一彦 九州大学大学院人間環境学研究院
吉岡久美子 九州大学大学院人間環境学研究科
高橋 紀子 九州大学大学院人間環境学府
三谷 佳子 九州大学大学院人間環境学府

A trial of facilitator training for structured encounter group by "Several Co-Facilitators Method"

Kazuhiiko Nojima (*Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University*)
Kumiko Yoshioka (*Graduate school of Human-Environment Studies, Kyushu University*)
Noriko Takahashi (*Graduate school of Human-Environment Studies, Kyushu University*)
Yoshiko Mitani (*Graduate school of Human-Environment Studies, Kyushu University*)

This paper is a case study on a trial of facilitator training for structured encounter group by "Several Co-Facilitators Method". Three training facilitators facilitated a structured encounter group (8 sessions, 90 minutes, every week, school) with an expert facilitator. We described the group structure and group process of this group. And we considered next 3 points. (1) Characteristics of "Several Co-Facilitators Method" compared with "Single Co-Facilitator Method", (2) Co-Facilitator experience, (3) problems with "Several Co-Facilitators Method". We concluded that "Several Co-Facilitators Method" is useful as a facilitator training for structured encounter group.

Keywords: "Several Co-Facilitators Method", facilitator training, structured encounter group

1 はじめに

最近では教育界を中心に、構成的エンカウンター・グループ（構成的グループエンカウンター）の実践が盛んに行われるようになってきている。ある意味でブームとも言えよう。しかしそうなればなるほど、きちんとしたファシリテーター養成システムが必要である。というのは、構成的エンカウンター・グループは単なる知識の獲得ではなく、知・情・意全体がかかわるパワフルなものだからである。しかるに現状は、養成システムが殆どない状態である。文献的には、菅沼（1985）のものがあるだけである。ちなみに國分・片野（2001）によるファシリテーション論では、ファシリテーターのあり方・動き方がかなり明確に述べられているが、ファシリテーター養成システムについて触れられていない。

このようななかでわれわれ（野島・内田，2000）は、「〔単独〕コ・ファシリテーター方式」によるファシリテーター養成の試みを報告し、考察を行なった。その後、その体験を踏まえて検討をし、新たに「複数コ・ファシリテーター方式」を試みた。本稿では、それについて報告し、考察を行いたい。

「複数コ・ファシリテーター方式」では、ベテランのファシリテーターと養成される複数のコ・ファシリテ

ーターがチームでグループを担当し、セッションごとに、〈ブレ・ミーティング〉→〈共同してグループ担当〉→〈ポスト・ミーティング〉が行なわれる。

II ファシリテーター養成が試みられた グループの構成

1. 構成的エンカウンター・グループの位置づけ

ファシリテーター養成が試みられたグループは、ある年の学部の授業「グループ・アプローチ論演習」（5時間目、90分間）として行われた。

2. グループ編成

メンバーは学部生（2年生～4年生）及び聴講生。参加人数は平均38名（SD=4.47）。メンバーの年齢は19～42歳、平均23.7歳（SD=5.13）。

ファシリテーターは、授業の担当教官（50代前半、男性、構成的エンカウンター・グループ、非構成的エンカウンター・グループのファシリテーターのベテラン。コ・ファシリテーターは、大学院生3名（A：30代前半、女性、構成的エンカウンター・グループのコ・ファシリテーター体験1回とメンバー体験1回、非構成的エンカウンター・グループのメンバー体験1回/B：20代前半、女性、構成的エンカウンター・グループのコ・ファ

シリテーター体験1回とメンバー体験1回、非構成的エンカウンター・グループのメンバー体験2回/C:20代前半、女性、構成的エンカウンター・グループのコ・ファシリテーター体験1回とメンバー体験1回、非構成的エンカウンター・グループのメンバー体験2回)。

ちなみに、コ・ファシリテーターには(ファシリテーターから)事前に次のようなことがEメールで伝えられている。①基本的には前年度のコ・ファシリテーターの内田君との経験をもとに進めていくので、まずは野島・内田(2000)の論文に目をとおしておくこと。とりわけ考察の2・3はよく読んでおくこと。②前年度の内田君と皆さんの大きな違いは、内田君はこれ以前にコ・ファシリテーター経験がなかったのに、皆さんは1度はあるという点、前年は1人だったのに今年は3人であるという点である。③構成的エンカウンター・グループのプログラムは昨年と同じ。④昨年同様、プレ・ミーティング、グループ、ポスト・ミーティングの3点セットでいく。④第1セッションは、ファシリテーターが主に進行をやる。皆さんには簡単な自己紹介をしてもらう。それ以後の進行については、第1セッションのポスト・ミーティングで打ち合わせよう。

3. スケジュール

10月16日=入門的講義、授業の進め方/10月23日=第1セッション:オリエンテーション・導入/10月30日=第2セッション:自己主張・表現訓練/11月6日=第3セッション:傾聴訓練1/11月13日=第4セッション:傾聴訓練2/11月20日=第5セッション:傾聴訓練3/12月4日=第6セッション:自己理解/12月11日=第7セッション:自己開示/12月18日=第8セッション:信頼・まとめ

このプログラムは、基本的には國分(1981)のものを参考にして、部分的にわれわれ独自のものを入れる形で構成されている。このプログラムは、前回(野島・内田, 2000)とほぼ同じである。

4. 場 所

場所は大きなプレイルームが用いられた。必要に応じて折りたたみ椅子が持ち込まれた。

5. リサーチ

メンバーはグループ経験前後の「参加者カード」への記入、毎セッション後の「セッション・アンケート」への記入が求められた。

III 経 過

1. 参加前の気持

44名のメンバーの7段階評定(1~7)のグループへ

の参加意欲は平均=4.75(SD=1.46)、期待は平均=4.93(SD=1.08)。ファシリテーターとコ・ファシリテーターの参加意欲と期待はすべて6。コ・ファシリテーターの自由記述=A:期待と不安/B:グループをみる力をつけたい/C:どんなグループになるか楽しみ。ファシリテーターの自由記述=2度目のコ・ファシリテーター養成。しかし前回(昨年)はコ・ファシリテーターは1名だったのに、今回は3名いるのが特徴。開始直前の軽い緊張感はあるが、何とかやっつけようとの意欲も結構ある。メンバーにいいグループ体験をしてもらいたいという気持は強くある。

2. グループ・プロセス

●第1セッション:オリエンテーション→導入

(参加者数:44名)

(1) オリエンテーション

①「参加者カード」への記入の時間がとられる。→②構成的エンカウンター・グループのオリエンテーション(目的、方法、ルール、ファシリテーターの役割)とファシリテーターとコ・ファシリテーターの自己紹介が行われる。

(2) 導 入

ファシリテーターのリードで次のようなことが行われる。①マン・ウォッチング:お互いにグループのメンバーを観察して挨拶する→②マッサージ:2人一組となり、2分間ずつマッサージを行う→③背中合わせ:別の2人一組をつくり、背中を合わせて1分間その感じを味わい、感想を語り合う→④直撃インタビュー:別の2人一組をつくり、3分間ずつ相手を理解するような質問を行う→⑤レポート:4つの2人組が一緒になり8人組をつくり、1分間、直撃インタビューで聞いたことをレポートしあう→⑥キーワード付き自己紹介:同じ8人組で自分の特徴を表すキーワードをいくつかつけて自己紹介を行う。折にふれてコ・ファシリテーターから感想のフィードバックが行われる。

[参加者の感想] 魅力度の平均=5.27(SD=0.87)

参加者の感想は多岐にわたっているが、ここではコ・ファシリテーターについてコメントされている記述をひろう。以下同様。

コ・ファシリテーターについて:3人の方がそれぞれ適切なフィードバックをして下さっていたように思う。また、とてもポジティブなコメントをして下さったので、それにのせられてグループがさらに良い方向に動いていたのではないかと思う。/私たちのグループだけでなく、全体を通して話してくれたので、他のグループも同じだったのかと思えた。/率直に感想を述べてくれていたと思う。ファシリテーターが、客観的に全体的なことを言ってくれたので、周りの状況が少しでも分かったと思

う。／グループの様子を正確にフィードバックしてくれて良かったと思われる。そして、自分の感情が入っていてもっと良かったな。／みんな飾らずに自分の感情を述べていて良かった。特に、セッション中の私たちの姿が「木のように見えた」というのは、すばらしい表現だと思いました。／好意的な感想が多くて、次のプログラムに進む気持ちを高めてくれた。「なるほどなあ」と思うことが多く、よくグループを見ていらして、うまいことを言うなあと思う表現もあった。／全体の雰囲気伝えてくれたので、自分のグループのとても良い雰囲気を振り返りました。／いい雰囲気だとリスポンズして下さったので、嬉しかった。／コ・ファシリテーターの方のコメントも面白かった。／すごく盛り上がっていると伝えてくれたが、あまりそんな感じはまだしなかった。みんなを、イメージ的にたとえられて、なんとなく一体感を感じた。／盛り上がっている、というのは違う…と思った。虚構っぽいところも多分にあると思う。つくり笑みみたいな不自然さが。／「さわやかな合コン」というのが、私が思っていた感じにフィットして、とても良かった。／グループの中では感じられない視点からのコメントが多かった。／ファシリテーターがいることを忘れるくらい自然だった。／ファシリテーターの方が3人いらっしゃるの、このセッションの場合、どんな効果があるのでしょうか。印象的だったのが、「私も中に入りたい」とおっしゃったこと…そんなムードだったんですね。／見守られているのが心地よい。／コ・ファシリテーターに外から見られてる感じがして、最初は変な感じだった。／最初は初めからいくつかのグループに固定的に分かれて、その1つ1つに入ってきてられて、話を誘導されると思っていた。自分のグループのことは分かるが、全体的なものは分からないので、知ることができて良かったと思う。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A：6／B：5／C：6

A：メンバーからは自然に迎えてもらった感じ／B：グループ全体がスムーズに動いている感じ／C：メンバーの期待や意欲の高さを感じた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

コ・ファシリテーターのコメントが良かった。グループはスムーズに立ち上がっているように思う。ただ、ごく一部だがグループにのりにくいメンバーがいるか？

●第2セッション：自己主張・表現訓練

(参加者数：42名)

このセッションでは、Aはメンバーとして入り、B、Cはオブザーバーとなる。

(1) 自己主張

①マン・ウォッチング：第1セッションと同じ。→②お願い：2人一組になり、一方が他方に2分間お願いを

する。→③押し売り：別の2人一組をつくり、一方が他方に2分間押し売りをする。

(2) 自己表現

①視線によるコミュニケーション：別の2人一組をつくり、まずは視線でコミュニケーションを1分間行い、感想を語り合う。次に一方が他方に視線で喜怒哀楽を伝え、感想を語り合う。役割を交代して同様に行う。→②手によるコミュニケーション：別の2人一組をつくり、手を握りあってコミュニケーションを1分間行い、感想を語り合う。役割を交代して同様に行う。→③表情によるコミュニケーション：別の2人一組をつくり、まずは表情でのコミュニケーションを1分間行い、感想を語り合う。次に一方が他方に表情で喜怒哀楽を伝え、感想を語り合う。役割を交代して同様に行う。→④音声によるコミュニケーション：別の2人一組をつくり、一方が他方に昔話をする。その際、ファシリテーターが指示によって、喜怒哀楽のいずれかの感情を込めて話す。終わってから感想を語り合う。役割を交代して同様に行う。→⑤身ぶりによるコミュニケーション：4つの2人一組が一緒になり、8人グループをつくる。各グループから1人ずつ出てきてもらい、ファシリテーターがジェスチャーの課題を与え、それをグループにもどりやってみよう。8名全員がジェスチャーの課題を行う。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.17 (SD=1.15)

コ・ファシリテーターについて：皆さん笑顔で感想を話してもらって、自分達がやっていることが、周りから見ても受け入れられていて、より自由な表現がしやすかったです。／自分達が気づかないことを伝えてくれたので良かったと思う。エクササイズの盛り上がりの状況などがよく分った。／外から見てる感想も面白かったし、やっていることの意味も分かってよかった。／時々コメントを聞くと、冷静になれました。／適切な意見をいつも返してくれていて、意欲を高めてくれていると思う。／コメントが皆をリラックスさせていた。／よく観察していると思った。／自分達では気づかないことをコメントしてくれて、外からと内、とても違うんだなと思った。／感受性の豊かさを感じます。「急に一人になった気分…」とか…／昔話のエクササイズの時、Cさんが「わけ分からなくて、とり残されたようで寂しかった」とおっしゃったのが心に残った。／感想を言う女性の方々のテンポが少し私の感情に合わない。結局、同じことをくり返して言っている気がする。先生(ファシリテーター)はさすがに面白い。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A：6／B：6／C：6

A：外から見えるグループの動きとメンバーとして中で感じるグループの動きの違いがかなりある。／B：メンバーのコ・ファシリテーターのコメントを聞く態度が真

剣。／C：漠然としたメンバーの印象しか語れないもどかしさを感じる。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

和やかな雰囲気が進んでいる。積極的に取り組んでいる人が多かった。自分は少し集中力が落ちているか。ジェスチャーの成功度が低いように思われ、これが自己評価を下げなければよいが…

●第3セッション：傾聴訓練1

(参加者数：39名)

①傾聴の説明：積極的傾聴について資料を用いて説明する。→②デモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターAの間での積極的傾聴のデモンストレーションを数分間行う。→③〈簡単な受容〉の実習：3人一組となり話し手、聞き手、観察者の役割をとる。聞き手は、3分間、〈簡単な受容〉のみを使って話し手への応答をする。終わってから観察者を交えて3人で感想を語り合う。その後役割を交代する。3人が全部の役割を体験する。→④〈くり返し〉のデモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターの間での(〈簡単な受容〉に加えて)〈くり返し〉のデモンストレーションを数分間行う。→⑤〈くり返し〉の実習：〈簡単な受容〉の実習と同様に行う。その都度、コ・ファシリテーターのコメントが入る。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.68 (SD=0.84)

コ・ファシリテーターについて：フィードバックしてもらおうとももらわないのでは違うと思います。→これが「カウンセラーのうなづき」に当たるのかも。／コメントが毎回あって、暖かく楽しい雰囲気を出していたと思う。／周囲の人達がどのようなか教えてもらい、自分の参考になった。／コ・ファシリテーターの話はどれもうなづけるものばかりで、自分達の状態を的確に言葉で表現してもらえて共感できた。／みんながリラックスできるようなコメントでした。／毎回、自分が思っていることを言ってくれるので、「そうそう」という気持ちにさせられます。／ほめ言葉によって、緊張している雰囲気がなごやかになってとても良かった。／全体の様子から細かな様子まで、よく捉えてコメントしていた。／合間のコメントでその場、グループ、自分がどんなだったか理解できてよかった。／コ・ファシリテーターのフィードバックが実感がこもっていて良かった。／みなさん、すごく私たちの動きをあるゆる面からとらえてあって、驚いた。また、とても親近感を感じた。／フィードバックが自分の思っていることと似ていて面白かったです。場を和ませるように話が楽しかったのも緊張がとれてよかったです。／いつもなるほどと思うことや気づかなかった点等を指摘していただけるので、聞くのが楽しみ。／良い点を評価していただいたり、先生に質問をしてもらったりして、みんな、

コメントの後はやりやすくなり、リラックスできました。／「そうか」と考えさせられることが多かったです。先生(ファシリテーター)に聞きたいことを聞いていただけました。／コ・ファシリテーターもくり返しのところに苦しんでらっしゃるようで、同じような気持ちを言ってくれたのが良かった。／Cさんのお話では、経験されたことを踏まえた視点で話されていたので、「その通り」というところが多かったです。Aさんのペースのお話でも、デモンストレーションの話の中に、受講生に伝えようとしているなという感じでした。／Bさんは足の小指の話が印象的。例に毎回、感動しています。／Bさんは盛り上げてくれるのがうまいなあと思います。Aさんのコメントは、冷静にフィードバックを進めてくれます。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A：6／B：6／C：5

A：デモンストレーションでの緊張感を感じた。／B：メンバーは和やかな雰囲気である。／C：メンバーはじっくりと話を聞いてもらう嬉しさを体験しているように感じた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=5.5

コ・ファシリテーターがコメントを考えることは大事だと思った。全体的に暖かな雰囲気。自分は落ち着いている。今日はおちこぼれているような人を見かけなかった。

●第4セッション：傾聴訓練2

(参加者数：42名)

①〈明確化〉のデモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターの間での(〈簡単な受容〉、〈くり返し〉に加えて)〈明確化〉のデモンストレーションを数分間行う。→②〈明確化〉の実習：3人一組となり、それまでと同様に行う。→③〈支持〉のデモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターの間での(〈簡単な受容〉、〈くり返し〉、〈明確化〉に加えて)〈支持〉のデモンストレーションを数分間行う。→④〈支持〉の実習：それまでと同様に行う。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.71 (SD=0.90)

コ・ファシリテーターについて：前回より声のトーンが穏やかであったことと、バーバルでなくともノンバーバル(表情)でサポートしうることの指摘は大変納得できた。／自分達が気づかない声のトーン、動き、表情についてフィードバックして下さり、外面的なところが理解できた。／支持は短い時間ではなかなか出てこず難しいのですが、Aさんのコメントで表情や態度などで支持することも重要だと気づきました。／ノンバーバルな面での指摘が多くて良かった。自分では分からないことを言ってくれる。／フィードバックされると、それもプラスのフィードバックだと、落ち着くというか安心した。／コ・

ファシリテーターの観察で「なるほど」と自分を客観視できてとても良いと思う。／周りはどうしているのかが分かって良かった。／思っていなかった指摘が出てきてびっくりした。／周りをよく観察していると思った。／いつも自分達が気付かないような事を言うってくれるので、コ・ファシリテーターの話に関心をもって聞いている。／毎回、皆の前で話をするのも大変だろうと思いますが、飾らず、ありのままに自分の話をされるので、私も見做っていいと思います。／グループの様子をよく見ていると思った。外から見た様子が分った。／自分がしているところを外から見てくれるのは視野が広がってよい。外から見た自分の様子はどうしても自分では見ることはできないから。／フィードバックが面白いとのりやすい。／コ・ファシリテーターに言われた注意すべき点が自分にもあてはまったのでいけないなと思いました。／場をリラックスさせてくれる雰囲気があっていいと思う。デモンストレーションは、コ・ファシリテーターは結構大変そうだった。／今回、デモンストレーションで話すのが、コ・ファシリテーターはややつらそうに見えた。／デモンストレーションでは、コ・ファシリテーターの緊張やもやもやがこちらに伝わって目を覆いたくなることもあったが、いい経験になった。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A:6/B:6/C:6

A:セッションが始まる前、セッション時のメンバーの変化を感じる。／B:デモンストレーションの大切さを感じた。またコ・ファシリテーターのもたらす安心感も感じた。／C:暖かく見守る役割を意識した。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

グループは前回よりさらに和やかな雰囲気であった。3人のコメントがそれぞれに面白い。コ・ファシリテーターB、Cのデモンストレーションへの協力も足が地についている感じで良かった。自分は穏やかでしっとりした感じ。

●第5セッション：傾聴訓練3

(参加者数：36名)

コ・ファシリテーターB、Cはメンバーとして入る。

①<質問〔リード〕>のデモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターの間での(簡単な受容)、<くり返し>、<明確化>、<支持>に加えて) <質問〔リード〕>のデモンストレーションを数分間行う。→②<質問〔リード〕>の実習：3人一組をつくり、それまでと同様に行う。→③総合練習のデモンストレーション：ファシリテーターとコ・ファシリテーターの間でのデモンストレーションを数分間行う。→④総合練習：聞く時間を10分間と長くして、それまでと同様に行う。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.57 (SD=0.95)

コ・ファシリテーターについて：Aさん1人であんな感想がたくさん述べられてすごいなと思いました。／1人で何回も感想を言われて大変そうでした。でも一生懸命に言葉をかけてくれていたと思う。／今日は一人で大変そうだったが、きちんとフィードバックされていたように思う。／今日は同じ人がずっとフィードバックしていましたが、あれこれ見る所があるんだなあと思いました。／Aさんが言われていたことは非常に分かりやすく、とても共感できた。／「どっしりと地に足をつけて、落ち着いて聴いている」というコメントが出た時、私もオブザーバーでリスナーを観察してて思ったことなので共感できた。／「自然さ」「自分らしさ」を強調されたところが、3回目のセッションに適切だったと思います。／全体を和ませてくれるようなコメントで、ゆっくり楽しくリードされている感じがした。／場を和ませてくれるようなコメントをたくさんしてもらえた。／感想に関して同感できた。／感じを「明確にパン」と表して下さるのありがたい。／メンバーの気持をまとめて話していたように思う。／新しい視点に気づかされた。／コメントやデモンストレーション、何となく打ちとけた内容の話、だじやれのような比喻で、この場が和んだと思います。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A:6/B:6/C:6

A:複数コ・ファシリテーターと単独コ・ファシリテーターの動き方について考えた。／B:メンバーとして参加し、動き方に戸惑いを感じた。／C:メンバーとして入り、ファシリテーター、コ・ファシリテーターがいることの安心感を感じた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

傾聴が一区切りできたことに満足。自分は落ち着いてはいるが少し疲れているか。

●第6セッション：自己理解

(参加者数：35名)

①金魚鉢方式：(コ・ファシリテーターが入り)6人組を6つづくり、2つの組がワンセットとなる。ワンセットの1つの組が小さな輪をつくり、別の組がそれを大きく取り囲む。小さな輪の組の人は、10分間、「これまでの研修を通して思ったこと・感じたこと」というテーマで集団討議を行う。取り囲んでいる輪の組の人はその様子をマンツーマンで観察する。討議が終わったら、観察者が1分間ずつ、フィードバックする。フィードバックが終わったら、内の輪の人はそれを聞いての感想を3分間、語り合う。その後、内と外の輪の人は交代し、同様に行う。→②最後にファシリテーターが「ジョハリの四つの窓」について図を書いて説明する。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.29 (SD=1.38)

コ・ファシリテーターについて：いつも優しく心なご

むコメントをしてくれるので嬉しい。／いつも温かい雰囲気
 気で感想を述べて下さり、ありがとうございます。特に
 Bさんはほのほのとしていていい感じです。／フィード
 バックをされると落ち着く気がします。／集団セッション
 の感覚が、コ・ファシリテーターの方のコメントによっ
 て自分の中でよりはっきりした気がします。／フィード
 バックが分かりやすかった。／周りをよく観察されている
 と思った。／今日は周りの輪の人達が6人もいたので、い
 つもより堅い雰囲気だったのを、コメントでみんなの心
 をほぐしてくれたのが、とても助かった。／自己開示した
 感想を言っていると感じた。／よく見ていらっしやること
 と、いつも思うのですが、非常に率直でいられる。／自分
 達のグループだけでなく、他のグループの様子を知ること
 ができた。／グループの中にある自分からは分からない
 ところ、大きな流れについての意見が聞けた。／3つしか
 話をするグループはなかったが、どこもそれぞれ全く
 違っていたことが分かった。／いつもの確なフィードバ
 ックをされていてすごいと思います。／「無理をしないよう
 に」と言っていただけで、すごく安心できました。／Aさん
 が「何をしゃべっていいか分からない」という発言でも
 いいんですよ、今思っていることを素直に出されて下さ
 いというコメントで少し楽になれた。／参加者の様子を
 よく見ていると思った。違った視点から見ると、また感
 じ方が違うと思った。／とても積極的に傾聴してくれて、
 ありがたかったです。自分がどういう風に人の話を聞い
 たり、話したりしているのか、一寸分かりました。が、
 恥ずかしかったです。／ああ、そうかと思わされた。／毎
 回、本当にグループをよく観察されているなあと感心す
 る。また、コ・ファシリテーターの方々自身も「緊張し
 ている」など、とてもご自分に正直な態度であるように
 思えて、親近感を感じた。／コ・ファシリテーターの方も
 すごく緊張してらっしゃったと思います。今回は、うま
 く全体を見ることが難しかったのでしょうか？そんな印
 象を受けました。／コメントするのも大変なんだと思っ
 た。／コ・ファシリテーターのコメントにいささかいらだ
 ちをおぼえる。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A:6/B:
 6/C:6

A:前回よりも落ち着いて取り組めた。/B:メンバー
 の緊張感が伝わってくる。/C:メンバーとして入っ
 てもコ・ファシリテーターとしての役割を求められて
 いるように感じた。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

グループは結構上手にやっている感じ。自分は落ち着
 いている。

●第7セッション：自己開示

(参加者数：31名)

ファシリテーターが会議で居ないため、コ・ファシリ
 テーターCがグループの進行を行う。

①自分を語るデモンストレーション：コ・ファシリ
 テーターCが自分を語るデモンストレーションを行う。
 →②6人組をつくり、そのなかで各メンバーは順番に自
 分を語る。→③質問コーナー：このやり方に関する質問
 を受ける。最後にコ・ファシリテーターが、話してみ
 ての感想と話す様子のフィードバックを行う。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.32 (SD=1.36)

コ・ファシリテーターについて：先生の時とは違って
 院生の方々が一致団結されているように見えました。/
 セッションを円滑に遂行するのにとてもいい役割をと
 っていたと思う。／わかりやすかった。／場の雰囲気を和
 ませてもらった。／受容的だった。やりやすい感じで良
 かったです。／良い感じだと思った。／テンションが上がり
 すぎてしまう時に、一息入れるような感じでコ・ファシリ
 テーターの話があったので良かった。／Aさんが何度も自
 分に無理をしないでとおっしゃってくれたので、リラク
 スできた。／最初がいつもと違うので、場の雰囲気もい
 つもと違いコ・ファシリテーターに対する緊張を感じた
 が、終了時には慣れた。／先生がいらっしやらないとい
 うことで、いつもよりコ・ファシリテーターの方々が力づ
 よくみえて、私達のために一生懸命やって下さっている
 のが伝わってきた。／今日は先生がいらっしやなくて大
 変だったんじゃないかなと思います。でもきちんととい
 うか一生懸命やっていただいたんじゃないかなと思いま
 す。／先生はいらっしやらなかったが、立派に役目を果
 していたと思う。／先生が不在だったが、うまくおぎな
 えていたように思います。／先生が休みということでは
 したが、いつも通りに臨めたので良かったです。／先生が
 いらっしやらないので、どうなるかなと思いましたが、大
 体いつもと変わらず話すことが(聞くことも)できた
 と思います。／ストップウォッチの音になってから(合
 図の)ベルが鳴るまで時間があって、その間が少し気ま
 ずかった。／全体の流れが不明で、孤立した感じだった。

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A:6/B:
 6/C:6

A:グループ前に数回行ったコ・ファシリテーター同
 士での話し合いとグループでの支え合いがよかった。/
 B:進行役のコ・ファシリテーターCへの信頼感が持
 った。/C:メンバーがグループを動かしていくパワー
 を感じた。

●第8セッション：信頼・まとめ

(参加者数：35名)

ファシリテーターは居るも、前半はコ・ファシリテ
 ーターC、後半はコ・ファシリテーターBが進行役を
 つとめる。コ・ファシリテーターAはメンバーとして入

る。

①（前半は）歩き回って握手する。→②ブラインドウォーク：2人一組となり、一方が目を閉じ、他方がその人を誘導して部屋を動き回る。→③背中合わせ：2人で背中を合わせる。④（後半は）6人組となり、「今感じていること」を30分間、話し合う。→⑤ポジティブ・フィードバック：6人組で相互に2分間ずつ、ポジティブ・フィードバックを行う。⑥まとめ：ファシリテーターが今回が8回シリーズの最後であることを伝え、それぞれにいい体験をしたと思うと述べる。

〔参加者の感想〕 魅力度の平均=5.70 (SD=0.95)

コ・ファシリテーターについて：

〔コ・ファシリテーターの感想〕 魅力度=A：6/B：6/C：6

A：（メンバーとして参加したことで）メンバーとしての自分と、コ・ファシリテーターとして中から二人のコ・ファシリテーターを応援する自分がいた。/B：進行役をしている時、グループの中と外にいるコ・ファシリテーターからのサポートを感じた。ちゃんと聞いてくれるメンバーがいた。/C：セッション中に他のコ・ファシリテーターと意思疎通を図ることへの迷いがあった。

〔ファシリテーターの感想〕 魅力度=6

コ・ファシリテーターがグループを進めてくれるのを見守る。時々私とはやり方が違うなと思うところもあったが、概ねよく進行させてくれたと思う。コ・ファシリテーターはよくやってくれたと思う。

3. 参加後の感想

35名のメンバーの7段階評定（1～7）のグループへの満足度は平均=5.65 (SD=0.98)、ファシリテーターとコ・ファシリテーターは全員6。

コ・ファシリテーターの自由記述=A：コ・ファシリテーターの体験は初めてであったが、無事終わってホッとした。先生のファシリテーションを見させていただいたことが、何より大きかった。またグループ・メンバーに最後まで支えられ、メンバーの力を信じることを今回も改めて実感した。さらに今回は複数コ・ファシリテーターということで、コ・ファシリテーター同士の支え合いを体験できたことも非常に大きかった。全体を通して貴重な体験だった。B：今回、コ・ファシリテーターとして参加することを通して、実に様々な体験ができたことがとても良かったと思う。まず先生のファシリテーションを生で見ることができ、ファシリテーターとしてのあり方、グループの進め方を学ぶことができた。また、グループの前後での先生とコ・ファシリテーターによる話し合いにより、グループの見え方の違いについて、気付かされることもあったし、お互いにサポートし合うことができた。こういった話し合いを含めて、ファシリテ-

ション、グループについてさらに深く学ぶことができたのだと思う。コ・ファシリテーターの役割はメンバーとして参加することもあれば、オブザーバーとして、ファシリテーターとして参加することもあり、実に多様な役割を担うことで、グループの見方もより広がったと思う。それぞれの役割の中で、メンバーが安心してエクササイズに取り組み、自己への気付きや他者への理解を促していけるように、どうメンバーに関わっていくかということを経験的に学ぶことができたと思う。先生をはじめ、一緒に支え合って学んできたコ・ファシリテーターであるAさん、Cさんに感謝の気持で一杯である。

ファシリテーターの自由記述=はじめてのコ・ファシリテーター3名でのやり方であったが、前回のコ・ファシリテーター1名だけよりも、グループに対する目と手がゆき届いて良かったと思う。メンバーの一部には、数人グループにのりにくい人もいたが、概ねのってやってくれたと思う。自分としては全般的に落ち着いて穏やかであった。このようなスタイルは、ファシリテーター養成としてやれそうに思えた。

IV 考 察

1. 「単独コ・ファシリテーター方式」と比較しての「複数コ・ファシリテーター方式」の特質

「単独コ・ファシリテーター方式」と比較しての「複数コ・ファシリテーター方式」の特質は何であろうか。一番大きな特質は、前者はコ・ファシリテーターが「個」であるのに対し、後者は「チーム」であるという点である。チームであるが故にプラスとしては、次のようなことがあげられる。①同時にコ・ファシリテーター（達）が多面的な役割（グループの進行役、アシスタント、メンバー、観察者）を分担できる。②コ・ファシリテーター同士、相互に支え合ったり、頼り合ったりすることができる。③グループを（複数の人の視点によって）多角的な視点から見ることができ、またグループに多角的な視点からコメントをすることができる。

しかし、マイナスとしては、複数いることで支え合えるからこそ、例えば困ったことが起こったときに、本来だとメンバーと話し合っていたいいことを、コ・ファシリテーター同士の中だけで解決しようとしてしまったこと（第8セッション）があげられる。

ちなみにこのたびの3名のチームは、今回以前に、構成的エンカウンター・グループや非構成的エンカウンター・グループと一緒にコミットする機会を持っており、チームワークが非常に取りやすかったように思われる。

2. コ・ファシリテーターの体験

このたびコ・ファシリテーターは、養成の過程でどの

ような体験をしたのであろうか。

第1には、複数コ・ファシリテーターという構造であったことから、コ・ファシリテーターがチームとなっており、それに伴う「支え合い」「協力」「相互信頼」等といった体験をしている。これらは単独コ・ファシリテーターでは体験できないことである。

第2には、複数コ・ファシリテーターという構造ではあったけれども、前回の単独コ・ファシリテーターの場合とほぼ同じ体験もしている。ちなみに、前回の単独コ・ファシリテーターの体験として野島・内田(2000)は、次のようなことをあげている。①ファシリテーターのグループの進め方を観察してその意図を教えてもらう。②複数のスモールグループごとの特色を観察する。③メンバーの様子を観察する。④スモールグループにメンバーとして参加していても、メンバー個々、スモールグループの動きを観察する〔参加しつつの観察〕。⑤全体を観察してのフィードバックを行う。⑥自分が入ったスモールグループについてのフィードバックを全体のなかで行う。⑦セッションを自ら企画し進行する。

3. 「複数コ・ファシリテーター方式」に伴う問題

「複数コ・ファシリテーター方式」に伴う問題としてはどのようなことがあるのであろうか。次のようなことが考えられよう。

第1に、今回の複数コ・ファシリテーターはすべて女性のみであったが、男性を入れるのがよいのであろうか？一般的にグループは異質性(性別, 年齢, 身分, 地域等)が高い方がダイナミックになりやすいと言われることからすれば、コ・ファシリテーターのチームにも両

方の性が入るようにするのがよいであろう。

第2に、複数ファシリテーターという場合、今回はたまたま3名であったが、何名が最適であろうか？これについては、適切なコ・ファシリテーターの人数はグループの規模(メンバーの数)に応じて変わるように思われる。今回くらいの参加者数(30~40名, 学級集団くらいの規模)の場合だと、3名というのは多からず少なからず丁度良かったように思われた。4名以上になると、やや多いという感じになりそうな気がする。2名以下の場合、単独ファシリテーターでもやれることからすれば、あまり問題はないように思われる。

引用文献

- 國分康孝(1981) エンカウンター ―心とこころのふれあい, 誠信書房.
- 國分康孝・片野智治(2001) 構成的グループ・エンカウターの原理と進め方―リーダーのためのガイド, 誠信書房.
- 野島一彦・内田和夫(2000) 「コ・ファシリテーター方式」による構成的エンカウンター・グループのファシリテーター養成の試み, 九州大学心理学研究, 2, 43-51.
- 菅沼憲治(1985) グループ・ファシリテーターの養成をめぐる一構成的グループ・エンカウターの立場から, 野島一彦・安部恒久編, グループ・ファシリテーターの養成をめぐる一第3会日本心理臨床学会自主シンポジウム(1984年, 広島大学), 日本グループ・アプローチ研究会資料 No.1, 7-9.